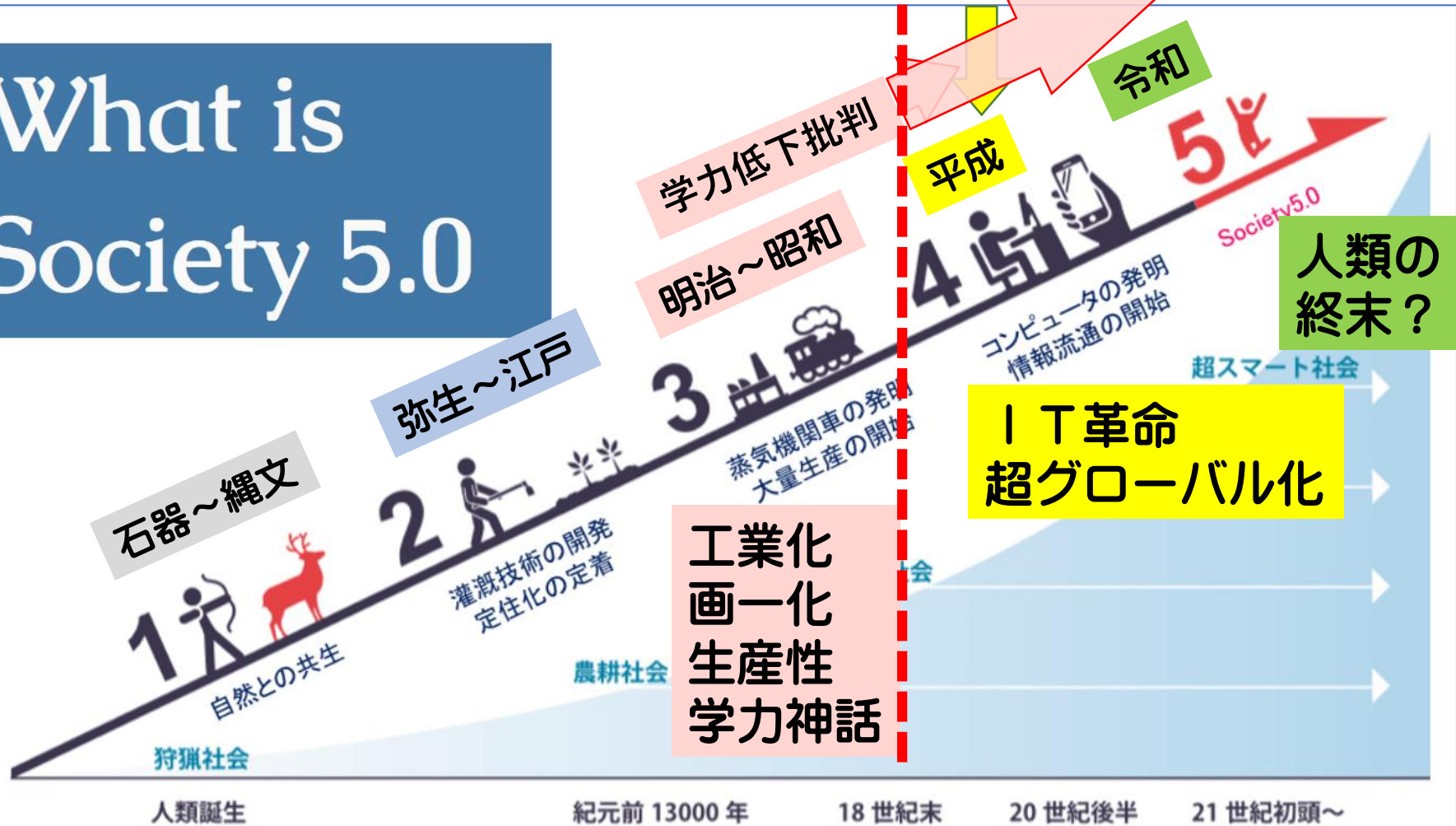


平成10年「ゆとりの中で生きる力を育む」

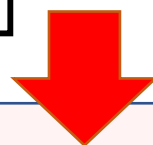
What is Society 5.0



個人の成長

10年前の学習指導要領

児童の人間として調和のとれた
育成を目指し・・・（個性を生かす）



個人の成長

新しい学習指導要領（前文）

社会人としての役割

自分のよさや可能性を認識する

豊かな人生を切り拓き、

ことができるようにすることが求められる

とともに、

あらゆる他者を価値のある存在として
尊重し、多様な人々と協議しながら
様々な社会的変化を乗り越え、
持続可能な社会の創り手となる

この考え方は、ESDそのものです

（学習指導要領の15ページで確認しましょう。）

学習指導要領では具体的には

知識や技能だけでなく

(厳しい時代をたくましく)

「生きる力」を育む

1、課題解決に必要な

・思考力

・判断力

・表現力

・主体的に学習に取り組む態度

・多様な人々との協働 コミュニケーション能力

2、豊かな心や創造性(道徳)

3、健康で安全な生活と

豊かなスポーツライフ (17ページ)

教育課程の編成において

総合的な学習の時間の目標と関連を図り

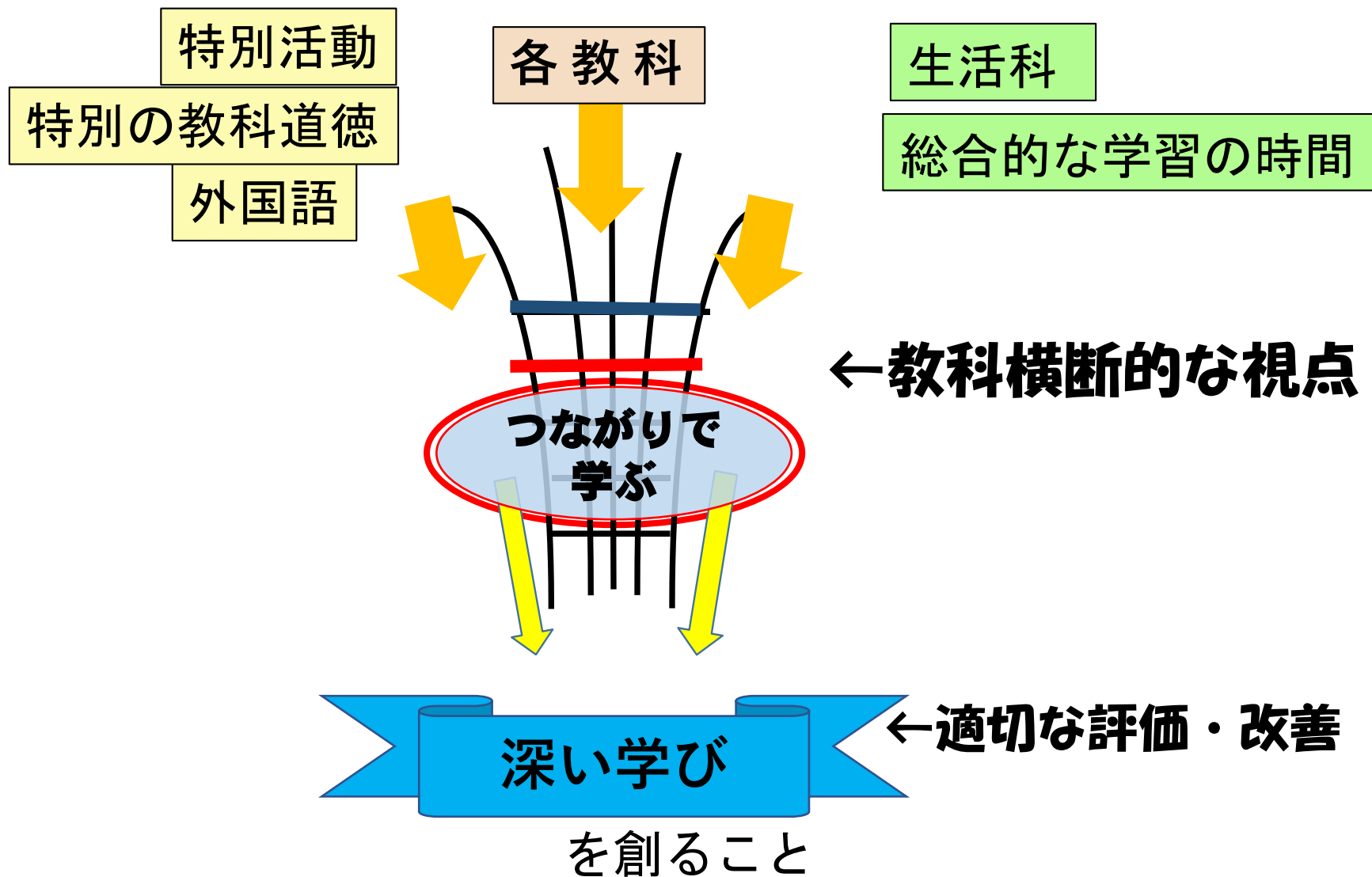
- ① 教科横断的に学ぶ (19ページの2)
(カリキュラム・マネジメント)
-

教育課程の実施において

- ② 主体的・対話的で深い学び
に向けた授業改善 (22ページ1の(1)・・・つまり)
《探究的・問題解決的な学び》のこと

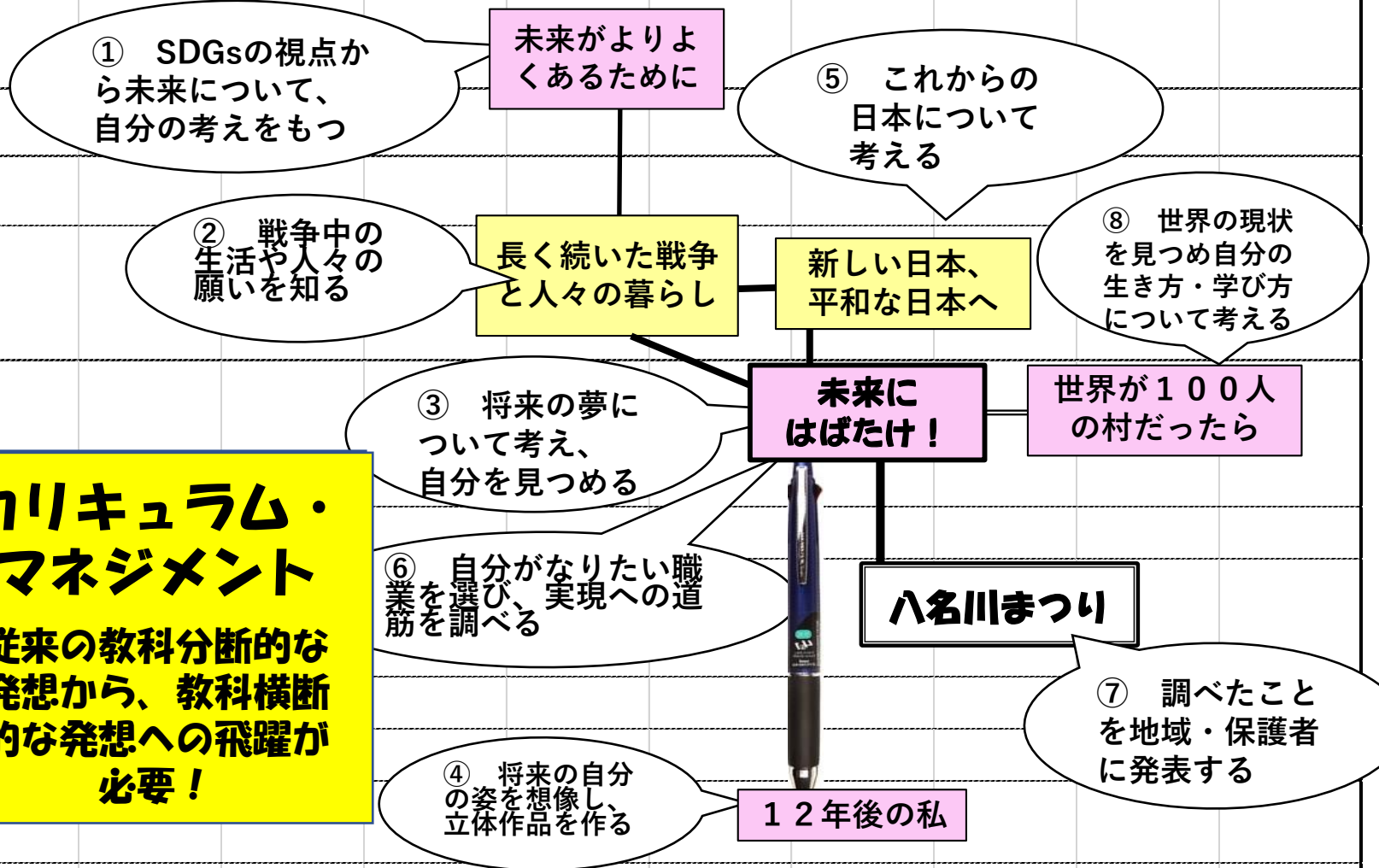
カリキュラム・マネジメント するということは、

従来、教科・領域ごとに
指導してきた内容を



教科領域	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語										
算数										
理科										
社会										
総合										
英語										
特活										
道徳										
音楽										
図工										
体育										
家庭										

カリキュラム・マネジメント
従来の教科分断的な発想から、教科横断的な発想への飛躍が必要！



環境の教育

国際的な協力

環境の問題は自分たち
だけが取り組んでもだめ
です。国際的な協力の
システムが必要です。

国際的な協力のためには、
お互いの国の文化や生き方
を尊重できなくては、協力
なんてできません。

持続可能な世界のための4つの視点
(教科領域の学びをつなぐ4つの視点)

人が人として生きていくには
環境が重要です。
この4つの視点は、相互に
関連し合っているのです。

いろいろな国の文化や
生き方を知る土台には、
人間として尊重し合う
信頼関係が大切です。

人権・命の教育

多文化の理解

主体的・対話的な学習過程

探究過程

課題の設定

情報の収集

整理・分析

まとめ・表現

【学びに火をつける】



【調べる】



【まとめる・実行する】



【伝え合う】

単元全体に関わる大きな問題意識を共有することが重要。目標に向けて、教師の仕掛ける能力が成否を分ける。下に示した「火をつける3つのステップ」を意識して指導する。

「計画する→調べる」というステップ。予想を立て、何時間で、どんな方法で、だれに聞いて、どこに行き、どうやって調べるか、どのようにまとめ、それを誰に伝えるかなど

ポートフォリオ等を活用しながら、効率よくまとめる。発表練習では、助言カード等を活用する。友達と練習の交流をさせることで、説得力のある結論が導き出せる。

〇〇報告会、八名川まつり（E S D学習まつり）など、子どもたちが、学年や学校・地域を越えて発表したり、行動したりする場を設定する。自ら考えたことを進んで実行させる。

1. 出会う

- ①体験活動や資料をもとに基本的な事実と出会い、共有する
- ②多様な気づきや感想を共有する

2. 気付く

- ①教師が提示したり、子どもが調べたりして合った矛盾する事実や意表をつく話や資料等から疑問を感じ、書き出す

3. 問題意識をもつ

- ①グループや学級全体で疑問を出し合い、分類・整理して学習問題化する
- ②問題について予想をする

子どもの疑問に
「それはね～・・・」
と答えを教えるのは、
昔の教育者！！
「学びに火をつける」
ことが重要だよ～



『こどもの学びに火をつける』際の3つのステップ

①

＜問題に気づかせる＞

- 1) 体験活動や提示資料をもとに**基本的な事実と出会う**
- 2) 体験したり資料を見たりしたことから、多様な気づきや感想などをもち、それを共有する

②

＜ 火をつける ＞

- 3) 教師が提示したり、子どもが調べたりして出合った矛盾する事実や意表をつく話や資料等から疑問を感じ、書き出す

事実との出会わせ方が重要！

③

＜テーマを決める＞

- 4) グループや学級全体で疑問を出し合い、分類・整理してまとめ、学習問題をつくる
- 5) 問題について、自分なりの予想をする

親しみ・憧れ・共感

それらをひっくり返す

学習問題にまとめる

第7回八名川まつり発表内容

令和元年の日程は未定です。発表内容は、子どもたちが決めますので変わっていると思いますが、お楽しみに

15 陸の豊かさも
守ろう



1年 秋のおもちやの店

ドングリやまつぼっくりで楽しもう



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



2年 うごくおもちゃ大しゅう合

ゴムで、風で、坂道で・・・いっしょにあそぼ！



11 住み続けられる
まちづくりを



3年 八名川タイムトラベル

町の史跡や道具を調べて語ります。



3 すべての人に
健康と福祉を



4年 やさしさパワーアップ大作戦

妊婦さん・外国人・お年寄り・・・



11 住み続けられる
まちづくりを



5年 今やろう！

地震から身を守る備えを！

保護者や地域の方と備えを語る



8 働きがいも
経済成長も



6年 未来にはばたけ！

～小学校卒業研究～

キャリアの視点から将来設計と学び方を語る



◆子どもたちが生きていく時代を踏まえた社会的な課題

何を学ぶか

目標 4 質の高い教育を全てのの人に



E S D

主体的・問題解決的な学び（学びに火をつける指導）
教科横断的・統合的な学び（ESDカレンダーの活用）
対話的・協働的な学びの重視（対話型授業の設定）

環境



目標 2
飢餓をゼロにする

2年 食べ物がから見える世界、
5年 これからの食料生産とわたしたち、



目標 7
エネルギーをみんなに
クリーンに

2年 うごくうごく、わたしのおもちゃ
5年 カーボンマイナス子どもアクション



目標 11
安全で災害に強い
まちづくり

2年 地震安全マップをつくろう
5年 今やろう、地震への備え



目標 13
気候変動対策

5年 カーボンマイナス子どもアクション
10年後のふるさと、
地球温暖化・森が消えていく



目標 14
海の豊かさ

5年 日本の水産業、岩井嶺海学校
(遠泳・地引を継・プランクトン)



目標 6
安全な上下水の
保障

4年 水を導くアースレンジャー



目標 9
産業と技術革新
の基盤づくり

5年 エコプロダクツ展参加
5年 環境の視点で工業を見直そう



目標 12
持続可能な生産
と消費

5年 こみと私たちの暮らし
5年 これからの食料生産とわたしたち



目標 15
陸の豊かさ

1年 生き物となかよし、
楽しさいっぱい秋いっぱい、
2年 ザリガニの赤ちゃん
おいしく育て、わたしの野菜
3年 ヤゴ救出大作戦
全学年 俳句づくり

人権



目標 1
貧困をなくす

2年 食べ物がから見える世界、
5年 これからの食料生産とわたしたち、



目標 3
健康と福祉

4年 やさしいパワーアップ大作戦(早いすバスケット、介
護体験等)、
大きくなってきた私(2分の1・成人式)



目標 5
ジェンダー平等の実現

2年 あしたへジャンプ
4年 心の信号機、手と心で読む、



目標 8
経済成長と人間らしい仕事

8年 未来へ羽ばたけ(キャリア教育の視点から)



目標 16
平和で公正な社会と行政

8年 私たちの願いを実現する政治、
世界を知り私たちにできることを発信しよう、

多文化理解(国際理解)



目標 10
人や国家間の平等

2年 どきどきわくわく町探検、
町のひみつを知らせたい
2年 昔の暮らしたんけんたい、
4年 さがそう深川木幸遺産
6年 江戸・深川の町を巡ろう

※ 人であれ国家であれ、平等なつきあいを造
るためには、相互理解が基礎となる。
多様な文化理解が異文化への寛容や、平等な
人間関係の基礎である。



目標 17
世界の協力とパートナ
ーシップ

2年 あしたへジャンプ、
4年 留学生との楽しい時間
6年 世界を知り、できることを発信しよう
全校体制で取り組む、国内外への発
信や交流

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

《SDGs》

学校内外の壁（全国的にみるとこのような傾向があります）

- ① 教師・・・自分が教え込みの学びで育ってきた。
知識を教えるのが教育だと思っている。
今までの授業にあまり問題意識がない。
自分の教科の専門性を高めるだけでいい
と思いがちである。
- ② 校長・・・学習指導要領のどこが変わったか、全体を
理解できていない。自分の研究教科・領
域を中心に学校づくりをしたがる。
自校の学力向上と、大過なく過ごすのが
大事だと思っている。
教育委員会の指導があってから動く。
- ③ 研究会・・・教科・領域等での分断型になりやすい

※ 来年度の教育課程編成に向けて全面的な見直しと、
推進のための研修（課題意識の共有）が重要です。

カリキュラム・マネジメント = ESDカレンダーづくり
によるホールスクール・アプローチ

- ・ ESDカレンダーも一度に全てを作れなくてもいい
- ・ つなげて学びを関連付けることの価値を教師が感じることが大事 単元を通じて価値ある授業に仕上げる
- ・ 指導観が変われば、その先のカレンダーは自然にできる
- ・ つなげた実践が子どもにとって価値あるものであること
- ・ 価値のない単元名を並べただけのカレンダーは無意味
- ・ 共有のためのシステム（共有フォルダの作成）が大事
- ・ 毎年、実践しながら変えていくのが本当のカリマネ！

主体的・対話的で
深い学びについて

=

「子どもの学びに火をつける」を
合言葉に問題解決的な学習過程
づくり（授業づくり）

- ・「子どもの学びに火をつける」ことができない教師は
2020年4月に向けて、覚悟を決めて学び直すこと。
- ・一人の教師が、同じ単元を毎年授業できるわけではない。
授業用の資料・活動のさせ方・依頼の手紙文、作品例など
学年・単元名の入ったフォルダを作り、共有する。
それによって、だれもが互いの実践を共有すること。

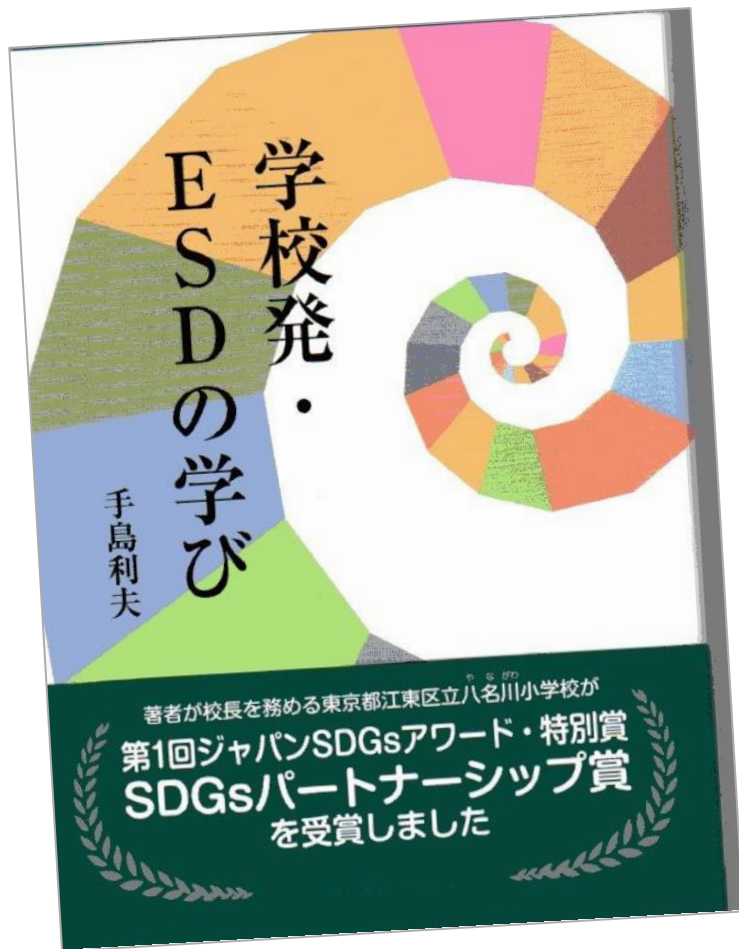
- ・ **うまい火のつけ方なんて、だれもができるわけでない。**
いつもそんな授業ができるわけでない。
一つの学年で、一年間に一つの単元の、導入から終末まで
開発できたら、それで十分。 **3年間くらいかけると年間の
主な指導計画ができてくる。それがカリマネにもなる。**
そう考えないと、コピーして形だけ整え、実践をしない。

今後、地域や保護者に向けても学校の教育を説明し、今、どのように変わろうとしているかを伝え、理解していただくことは重要です。しかし、「学力中心」の教育観を変えていただくのは簡単ではありません。

学校として、大切なことは、日頃から子どもたちが本気になって主体的に学ぶ姿を実現し、子どもの姿で学校の教育のあり方を示せることです。

子どもたちが、親や教師に与えられた課題を「自分から進んで学んでいる」としても、それは【主体的な学習】とは似て非なものです。

言われたことをやるのではなく、子どもが問題意識をもって学びその解決に取り組む姿をお見せして、一緒に応援していただくようにするのが近道です。



著書があります (2019年4月第増刷第2版)
「学校発・ESDの学び」で
検索できます。(教育出版)

ホームページがあります

ESD・SDGsを推進する
手島利夫の研究室

で検索してください。アドレスは以下の通りです。

<https://www.esd-tejima.com/>

ESDに関するコラムを12
回連載中です。↓
「教育出版 コラム」で検索で
きます。



学校発・ESDの学び